

# 楽市楽座で規制をぶつ壊させ

## 構造改革特区制度の活用を

**Q. 三宅隆介** 保育所の待機児童問題や介護サービスの不足が依然深刻化しています。その主因は極端な供給者不足です。とくに本市では、教育や福祉分野における新規参入が少ない。たとえば、戦後、市内に新設された私立小学校はたったの1校だけ。店の前に長い行列ができるのは、旧ソ連と同じで、民間による自由な競争が乏しいからです。もっと特区制度を有効活用して、不足した行政サービスを多様化すべきではないでしょうか？

**A. あべ市長** 市民サービスの充実、向上を図るために、民間の活力によって市民サービスが充実するよう改革をすすめてまいります。

### 三宅隆介の視点

特区制度は織田信長の楽市楽座のようなもの。こうした特区制度を積極的に活用して参入促進を促し、供給の多様化を図るべきです。

## 運任せの救急医療体制？

**Q. 三宅隆介** 救急医療は市民生活の基本的なセーフティネット。多くの救急患者が2次救急医療施設において処置を受けていますが、その実態は、およそ6割の施設がひとり当直、また、気道確保という最も基本的な救急措置すらできない研修医がひとりで当直しているケースもありました。つまり多くの救急医療施設が片手間で措置をしており、まったくの運任せ。行政として実態をしっかりと把握し、国の腰が重いのであれば、本市が積極的に改善に取り組むべきではないでしょうか？

**A. 健康福祉局 長** 市民医療にとりまして安心と信頼に支えられたこの救急医療体制の機能が十分発揮されるよう恒常的な実態把握に努めます。

### 三宅隆介の視点

私も救急外来の際、医療技術の未熟さから点滴の針がなかなか入らず、看護士さんに「運が悪かったと思って勘弁してください」と言われたことがあります。救急医療は市民にとって基本的なセーフティネットです。行政としてしっかりと実態を把握すべきです。

## 矛盾する学力向上アクションプラン

**Q. 三宅隆介** 学習指導要領で学習内容を3割も削りながら、こんどは学力向上アクションプランをつくっている国の姿勢には、政策の一貫性が感じられない。あれほど学力低下などはあり得ないと言っていたのに、なぜいま学力向上なのか？ 政策の誤りを認めるのか？

**A. 教育長** 経済協力開発機構や文部科学省の調査では知識量は低下しています。また、世界的な状況からみれば学習する意欲や学ぶ力は不足。この学習指導要領を充実するために、アクションプランがつくられました。

### 三宅隆介の視点

「ゆとり教育」から「学力向上」、またあるときは「生きる力」という現在の教育行政には、その一貫性が感じられません。このように、教育方針を2転3転させる公立学校は教育機関としての機能を充分に果たせず、結果、子どもたちの学力向上を学習塾に委ねざるをえません。倫理や道徳は家庭で学ぶべき問題であることから、いっそのこと教育を自由化し、学習塾も義務教育として認めるべきです。